

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H02615

研究課題名(和文)中国周縁部における歴史の資源化に関する人類学的研究

研究課題名(英文)An Anthropological Study of the Uses of Historical Resources in the Remote Areas of China.

研究代表者

塚田 誠之(TSUKADA, SHIGEYUKI)

国立民族学博物館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：00207333

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 21,600,000円

研究成果の概要(和文)：中国周縁部において歴史がいかに資源化されているのかという、従来未開拓であった課題について、民族英雄、文物・史跡・景観、記憶・記録・伝承といった問題領域に分けて、政府・知識人・民衆等の多様な主体が地域社会や民族文化のコンテキストと関わりつつどのような役割を果たしてきているのか、多民族の共存、国境地域の特性、歴史の多様性・操作性にも留意しつつ、人類学的立場からその実態を掘り下げて検討し、その中国的な特質の解明に接近した。歴史が中華ナショナリズムの再構築や地域のシンボルとして活用され、観光化されがちであるが、他方で地域社会や民族の文化やアイデンティティの維持に役割を果たしていることを解明した。

研究成果の概要(英文)：This research project discusses the current trend of the use of historical resources in periphery districts of China, focusing on themes such as ethnic heroes, materials, heritage, landscapes, records, and historical memories. In particular, from an anthropological view, we analyze how local governments, intellectuals, and common people have used different types of historical resources to gain benefits in the specific context of China (for example, the co-existence of different ethnic groups, district borders and manipulations of history.) In doing so, we clarify how the histories of ethnic groups are used as a symbol of localities and of China, while they also play important roles in maintaining ethnic and local identities.

研究分野：人文学

キーワード：中国 周縁部 歴史 資源化 民族 民族英雄 記憶 アイデンティティ

### 1. 研究開始当初の背景

広大な国土に多くの民族が居住し、膨大な史料と文化資源を持つ中国では、近年の目覚ましい経済発展にともない、歴史を含む文化の資源化の動きが国境に近い周縁部に急速に及んでいる。歴史が中華民族の一体性の構築に活用され、観光開発による実利の獲得など多様な目的と形態で諸民族をまきこんで進行している。しかし、中国においては、国家の統合、中華民族としての団結という政治的目的が重視されがちで個別の事例研究にとどまり、正面から取り上げられてこなかった。また、日本の文化人類学・歴史学界でもこの問題に関する研究は少なかった。利害にとらわれない調査に基づく総合的な実証的比較研究が急務である。

### 2. 研究の目的

中国周縁部において歴史がいかに資源化されているのか、民族英雄、文物・史跡・景観、記憶・記録・伝承といった問題領域に分けて、政府・知識人・民衆等の諸主体の役割や諸民族文化との関わりに留意しながら、人類学的立場から実態を解明するものである。

### 3. 研究の方法

中国では政府が「民族英雄」を創出し、公的に活用し、史跡を愛国主義教育や観光開発などに結び付ける政治的な色彩を帯びがちである。本研究は極力客観的な姿勢で研究を進めた。また、歴史を資源化する主体は政府・知識人・マスメディア・一般民衆等多様であり、それらが互いに対立・交渉・妥協しあいながら資源化の潮流を作り出している。そうした諸主体の関係性にも留意した。

さらに、民族英雄や民族集団の移住に見られるように、歴史の資源化は中国の国境を越える場合もあり、国内外との比較にも留意しながら研究を進めた。

### 4. 研究成果

研究代表者と分担者が、現地調査を行い、国立民族学博物館で国際シンポジウムを開催し(27年10月)、報告書を刊行した(国立民族学博物館調査報告142)。さらに問題点の共有のための研究集会を行った(28年10月)。研究成果の主要な論点は以下の通りである。

(1) 民族英雄について、その顕彰のされ方やその民族・地域社会の持つイメージと資源化の最新の実態が検討された。韓敏は、南宋の悲劇の名将岳飛について、儒教の価値観を具有する忠孝のシンボルと見做されてきたこと、その記憶や墳墓・廟宇での祭祀のされ方について、国家は愛国主義教育に、地方政府は地域開発に活用し、民衆は神聖な場として参拝し、岳飛の後裔の宗族は一族の誇りとして祭祀を続けてきたことを示した。

松本は明代永楽帝の時代に大航海を行った鄭和について、歴史の中に埋もれがちであ

ったが、近代以降に国家側から何度も再発見されてきたこと、そして現在の政権が進める壮大な対外政策「一帯一路」構想の進展において取り上げられていること、その評価は政治的な影響が強く、回族としてよりも中華民族の英雄として表象されることを示した。

大野は、チンギス・ハーンの陵墓について、文革で破壊されたが、1980年代以降修復され、近年、外来の漢族が観光業で利益を得て、チンギス・ハーンをモンゴル族としてよりも中華民族の英雄としていること、モンゴル族は漢族観光客を歓迎する役割を演じていること、また、国境を越えてモンゴル国でも英雄視されているが、他の遺跡を含めて中国と隣接国との「本家争い」に陥る危険性を示した。

なお、知名度の低い民族英雄、回族の馬本齋や壮族の儂智高は政治的な利用価値の低さから資源化されにくい。ただし、塚田は、雲南省文山州で壮族の村民が儂智高の祭祀を行い自らのアイデンティティ維持に活用していることを示した。しかし、国家側は反逆者として正式に祭らず、祭祀は秘かに行われてきた。儂智高はベトナム北部にも廟があり国境を超える。また、民族側知識人は儂智高を称賛し民族の統合政策に貢献している。

民族英雄は王朝や国家、地方政府、知識人、民衆にとって、それぞれの立場からさまざまに選択的に解釈されてきた。また、その時点の状況に応じて政治的に活用される傾向にあること、中国は多民族国家であるが、特定の民族としてよりも中華民族としての側面が強調されがちである。

(2) 文物・史跡・景観といった可視的なモノや建造物の資源化。高山は革命戦争の烈士の追悼のための烈士陵园について、烈士の位置づけ、民国期の陵园の様式、人民共和国における北部地域におけるソ連の影響を示し、陵园で献花や儀礼を行う式典の社会的な意義の重要性をも示した。また、「解放戦争」(国共内戦)の記念館などの施設について、1990年代以降の愛国主義教育政策の進展にともない解放戦争の資源化が進み、現在は民国期とともに、ある程度の距離感をもって扱われるようになったことを示した。

中国南部には歴史上設置された土著のエスニック・リーダー「土司」の建築物、遺跡、様々な用具などを含む「土司文化遺産」が資源化されている。長谷川は、雲南徳宏州タイ族の土司刀安仁について、歴史の中に埋もれていたのが、1980年代以降にタイ族知識人によって再発見され、革命に協力し外敵に抵抗した点で評価されるようになったこと、国家側が愛国主義教育の基地とし、メディアを動員して歴史資源としてのブランド化に成功したことを示した。こうした史跡は地域性の再構築においてシンボルとしての役割を果たし得る。ただし、史跡の中でも政府や企業による価値付けが所によって異なる。

四川省丹巴県のギャロン・チベット族の村

には巨大な歴史的な塔「石楼」がある。松岡は、その種類と用途、およびそれが村民にとって神性を持ち、移住先でも新たに造られていること、また近年の政府や村民による観光化と石楼再生の実態を示した。

内モンゴルの山頂や草原に建てられた石を堆積したオボは神聖な場所であり、それを祭る行為が一族の紐帯となる。藤井は、フフト市などにおいてそれが観光化されるとともに、「反/非観光化」の動きも見られること、観光化が加速しているが、政府が多民族共存の立場から観光用と民間の祭祀の調整をしていること、観光化しても民族による自文化が維持されていることを示した。

景観は祖先に関する歴史的記憶が埋め込まれた場所である。河合は、広東省梅州市の客家による 2000 年代における祖墓を主体とする宗族公園の建設、祭祀、参拝者について、参拝者の地域的な広がり、祖墓をめぐる歴史記憶と参拝のしきたりの継承、また祖先の故地について東南アジアの華僑による資金援助がなされていること、さらに台湾に住む血縁関係のない同姓者も親族として参拝することを示した。また、ペルーにおける調査をも加味して、中国の外から歴史の資源化をとらえなおすことの必要性、また歴史の資源化が新たな社会 = 親族構造の再構築を導くことや客家のルーツなど自己意識の創出における知識人の役割を示した。

革命戦争に関する施設や土司遺跡、石楼、オボなどの建造物・史跡に関する歴史の資源化は政治的な色彩が濃厚であるが、土司遺跡の資源化における知識人の動向、聖地に対する民衆の信仰、また祖先の故地に対する宗族や同姓者・知識人の動きから、諸主体の関与のあり方が多様・複雑であり、また観光化の方向以外にも反/非観光化などの動きもあって地域や条件の相異によって多様である。

### (3) 記憶・記録・伝承

歴史を資源化する際に祖先の来歴や移住史が鍵になる。塚田は、広西の漢族の地方集団「六甲人」について、移住史や言語・習俗から、侗族や漢族などの周囲の影響を受けつつ、移住史や習俗が集団のアイデンティティ維持に役割を果たしてきたことを示した。さらに侗族に融合した場合でも移住史の伝承にもとづき自らのアイデンティティを維持してきたことを示した。

移住史について、韓敏は、清代乾隆年間にロシアとの国境防衛のため盛京（現瀋陽）から新疆へと移住させられたシボ族について、「西遷」の移住史が民族の集団的記憶として伝承されてきたとともに、近年「西遷」が国家無形文化遺産として登録され、中華民族の愛国史として語られていることを示した。

朝鮮族は、近現代において移住や再移住を行ってきた。権香淑は、移動のプロセスと民間人が立ちあげた民俗村「百年部落」について、村長の主導のもとに村民が動き築 100 年

余りの朝鮮式家屋を改修し、来住当初の生活を再現したこと、その際に政府・メディア・専門家が役割を果たしたことを示した。

諸主体が関与するにしても住民自身の主体的な関りも重要である。この点について韓敏は、オーストラリアの博物館展示から、文化表象と歴史の資源化における原住民の主体性の重要性を示した。

移住史の記録と記憶について、吉野は、中国とタイのミエン（ヤオ）族について、祖先の来歴に関する伝承や記録文書は移住先のタイで資源化され活用されているものとそうでないものがあることを示した。また、個々の家に父系祖先の埋葬地が書かれた文書があって、それは各家の資源になるが集団の資源にはなりにくいことを示した。

民間で記憶・伝承されてきた語りと公的に編纂された史書との違いについて、稲村は、雲南のハニ族の歴史資料を「内的歴史」（父系で語り継がれてきた系譜の伝承）と、「外的歴史」（土司の歴史に関する漢籍）とに分類したうえで、前者は資源化され難いが、後者は土司の遺跡など痕跡が残りやすい点で資源化されることを示した。また、「民族の歴史」という概念が生まれた民国期の見直しやアジア規模での視点の重要性を示した。

### (4) 整理と課題

以上のように、歴史の資源化をめぐる諸主体の関与の実態が最新の調査にもとづいて明らかにされた。その状況は民族や地域性などの違いに応じて多様で複雑である。現代中国では中華ナショナリズムの再構築と密接に関わって政治色が濃厚であるが、他方で地域社会において民衆のアイデンティティの維持創出や反/非観光化の動き、多民族共存のなかでの自文化維持の動きが見られる。

歴史はその時々において人為的に構築され取捨選択される。その記憶は常に変化しうる。歴史のもつ属性は多様で、記録され政治的な意味合いを持つ歴史と民衆の間で伝承される歴史がある。本研究では、そうした複数の歴史を認めるとともに、それらがいかに政治経済的に使われる資源として発展してきたのか、その構築のプロセスを系統的に、また多民族国家であることにも留意して研究を進め、歴史の資源化の中国的な特質の解明に接近した。

今後の研究の深化のための展望も得られた。民族側の知識人の動向、文化遺産との関わり、国境を越える人的・経済的ネットワーク、中国の外での地域との比較といった点に注視したさらなる掘り下げが必要である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 43 件)

塚田誠之、三江県の「六甲人」に関する

覚書 その歴史・文化と民族意識、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、293-308

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008641>

韓敏、岳飛の社会記憶とその資源化、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、9-29

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008626>

楊海英(大野旭) 中国が政治利用するチンギス・ハーン 「中華民族」の英雄と資源化するモンゴルの歴史と文化、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、179-193

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008636>

松本ますみ、「一帯一路」構想の中の「鄭和」言説 中華民族の英雄か、回族の英雄か、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、31-54

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008627>

長谷川清、土司文物の資源化と歴史展示のポリテクス 干崖土司、刀安仁を事例として、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、219-238

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008638>

吉野晃、ミエン(ヤオ)の歴史資源化に関する覚え書き：中国とタイの場合、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、309-322

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008642>

松岡正子、ギャロン・チベット族における「石楼」の記憶と資源化 四川省丹巴県の「石楼」を事例として、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、239-262

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008639>

藤井真湖、内蒙古自治区(南モンゴル)におけるオボの資源化 加速する観光化の動きの中における反ノ非観光化の動き、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、195-218

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008637>

稲村務、八二 = アカ族の記憶と記録、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、113-138

高山陽子、烈士陵园の景観 南部と北部の記念碑の比較から、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、85-102

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008630>

河合洋尚、歴史記憶の資源化と文化的景観保護 広東省梅州における宗族公園の建設を例に、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、263-292

DOI : <http://doi.org/10.15021/00008640>

権香淑、中国朝鮮族の再移動と移住の資源化：「百年部落」をめぐる民俗文化の再構築、塚田誠之・河合洋尚編『中国における歴史の資源化の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告<SER>142、査読有、2017、139-154

[学会発表](計 43 件)

MATSUMOTO Masumi, The Discourse of Zheng He in OBOR Initiatives, The First International Symposium on Regional Economy of Beibu Gulf. 2017

河合洋尚、景観人類学的課題：以客都梅州為例、中国・厦門大学人類学研究所特別講演会、2017

韓敏、岳飛の社会記憶とその資源化 杭州岳廟を中心に、国立民族学博物館国際シンポジウム「中国における歴史の資源化 その現状と課題に関する人類学的分析」2016

松本ますみ、「一帯一路」構想の中の「鄭和」言説 中華民族の英雄か、回族の英雄か、国立民族学博物館国際シンポジウム「中国における歴史の資源化 その現状と課題に関する人類学的分析」2016

高山陽子、烈士陵园の景観 南部と北部の比較から、国立民族学博物館国際シンポジウム「中国における歴史の資源化 その現状と課題に関する人類学的分析」2016

稲村務、八二 = アカ族の記憶と記憶、国立民族学博物館国際シンポジウム「中国における歴史の資源化 その現状と課題に関する人類学的分析」2016

権香淑、中国朝鮮族の再移動と移住史の資源化 「百年部落」をめぐる伝統文化の再構築、国立民族学博物館国際シンポジウム「中国における歴史の資源化 その現状と課題に関する人類学的分析」2016

〔図書〕(計 20 件)

韓敏・色音編、National Museum of Ethnology、人類学視野中的歴史・文化与博物館 当代日本和中国の理論実践 (Senri Ethnological Studies <SES> 97) 2018、383

楊海英、文藝春秋社、「中国」という神話 習近平「偉大な中華民族」のウソ、2018、237

塚田誠之・河合洋尚編、国立民族学博物館、中国における歴史の資源化の現状と課題 (国立民族学博物館調査報告 <SER> 142、2017、327

HAN Min, KAWAI Hironao and WONG Heung Wah(eds.) Encino, Calif : Bridge21 Publications  
Family, Ethnicity and State in Chinese Culture Under the Impact of Globalization 2017、388

松岡正子、あるむ、青蔵高原東部のチャン族とチベット族 2008 汶川地震後の再建と開発【論文篇】、2017、539

高山陽子、ミネルヴァ書房、多文化時代の観光学 フィールドワークからのアプローチ、2017、232

塚田誠之編、風響社、民族文化資源とポリテイクス 中国南部の分析から、2016、499

稲村務、めこん、祖先と資源の民族誌 中国雲南省を中心とする八二 = アカ族の人類学、2016、566

河合洋尚・飯田卓編、国立民族学博物館、中国地域の文化遺産 人類学の視点から (国立民族学博物館調査報告 <SER> 136) 2016、328

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚田 誠之 (TSUKADA, Shigeyuki)  
国立民族学博物館・名誉教授  
研究者番号：00207333

(2) 研究分担者

韓 敏 (HAN, Min)  
国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授  
研究者番号：10278038

大野 旭 (楊 海英) (OHNO, Akira)  
(YANG, Haiying)  
静岡大学・人文社会科学部・教授  
研究者番号：40278651

松本 ますみ (MATSUMOTO, Masumi)  
室蘭工業大学・工学研究科・教授  
研究者番号：30308564

長谷川 清 (HASEGAWA, Kiyoshi)  
立教大学・文学部・教授  
研究者番号：70208479

松岡 正子 (MATSUOKA, Masako)  
愛知大学・現代中国学部・教授  
研究者番号：70410561

吉野 晃 (YOSHINO, Akira)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：60230786

藤井 麻湖 (真湖) (FUJII, Mako)  
愛知淑徳大学・交流文化学部・教授  
研究者番号：90410828

稲村 務 (INAMURA, Tsutomu)  
琉球大学・法文学部・教授  
研究者番号：50347126

高山 陽子 (TAKAYAMA, Yoko)

亜細亜大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：20447147

河合 洋尚 (KAWAI, Hironao)  
国立民族学博物館・グローバル現象研究  
部・准教授  
研究者番号：30626312

権 香淑 (KWON, Hyangsuk)  
大阪経済法科大学・アジア研究所・研究員  
研究者番号：00626484

長沼 さやか (NAGANUMA, Sayaka)  
静岡大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号：80535568  
(平成27年度まで研究分担者)

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )